

傳教大師天台より叡山へ移し玉ふ是を山寺の
奥の院に移し玉ふ此の燈火あり實に龍有燈火也
此故に義光公の伯父出家して海にも山にも
しる余り義光公の歎きや叡山へ登り燈明の火
を持来り玉ひて山南奥の院へ移し玉ふ中頃元龜
の亂の時叡山の燈火消て山寺より登りて移しける
されど遷失せし山内の宮後極く多たていとし元之如く宝物
等も取返し余も多分紛失ある由り朱印も取上
りて朝廷より此寺燈油田千四百廿石計りにありにけり